

314号  
昭和39年  
9月15日号

昭和39年10月に行われた東京オリンピック。アジア初の五輪開催に、国内は大いに盛り上がりました。開催前には聖火が本市を通過。207人がリレーで聖火を運びました。2020年には再び東京に五輪が。再度の盛り上がりを期待したいですね。



# 市民の皆さんと歩んで64年

市民の皆さんにご愛読いただいている「広報まえばし」。おかげさまで、今号で通算1500号目となりました。市の発展とともに皆さんと歩んだ本紙。過去の記事を振り返りながら本紙の歩みを紹介します。

問い合わせは 市政発信課 ☎027-898-6642

## 記事で振り返る当時の社会状況

特集号2  
昭和58年  
9月1日号

昭和58年に開催された、第38回国民体育大会「あかぎ国体」。冬季・夏季・秋季の3季に分かれ敷島陸上競技場（現在の正田醤油スタジアム）などを中心に、県内各地で40競技が行われ、熱戦を展開。市民からも本県選手に熱い声援が送られました。



511号  
昭和47年  
11月1日号

利根川で隔てられていた、本市と高崎市を結ぶ「昭和大橋」が昭和47年に開通。現在でも両市をつなぐ大動脈になっています。この橋の完成で、それまで両岸を舟で結んでいた「公田の渡し」は、惜しまれながらも姿を消しました。



76号  
昭和29年  
10月1日号

市政施行60周年と戦災復興、周辺町村との合併を記念して実施された「前橋グランド・フェア」。前橋公園や現在のるなばあくなど、4会場で多彩な催しが行われました。関東地方と長野県、新潟県の1都8県の文化の紹介と併せ、本市の産業や金融、都市計画などを紹介。本市の発展を印象付けました。



264号  
昭和37年  
8月15日号



この時期、まちなかの2つの通りにアーケードが完成しました。1つは立川町通り、もう1つは中央通り。特に中央通りは、当時としては全国的にも珍しい道路を全て覆ったアーケードで、市民の自慢の1つとなりました。

93号  
昭和30年  
6月15日号



上下水道がまだ十分には整備されていなかった昭和30年代の初め。市民の健康を守るために、衛生環境を整えることが急務でした。本紙93号では、市民ができる赤痢などの予防を紹介。時代が変わっても手洗いが大切なことは変わりません。

号外  
平成7年  
2月15日号

平成7年1月17日の早朝、震度7（当時）の直下型地震が関西方面を襲いました。この地震による災害は後に阪神・淡路大震災と呼ばれる大災害に。本紙では号外を発行し、被災地の状況をお知らせしました。また、地震が起きたときの対処方法なども特集。この震災以降、ボランティア活動や自主防災活動の重要性が再認識されるようになりました。

